



9月1日、関東大震災から101年を迎えました。「防災の日」は、防災への心構えと同時に「情報収集」と「発信」を教訓としなければなりません。

情報が不足していた震災の当時、デマが流布され、多くの朝鮮の方々が虐殺された負の歴史があります。

現代では、インターネットや SNS から多くの情報が一瞬で手に入り、発信もできます。しかし、情報の見極めは個々の裁量に委ねられ、一度発信してしまうと取り消すことができず「デジタルタトゥー」として一生残り続けるリスクも存在します。さらに、個人への誹謗中傷等、情報に左右された結果、個人が集団にまで発展し「対立」や「分断」を生み出しています。今年発生した能登半島地震では、嘘の救助要請を発信したことで逮捕者も出るなど、発信者のモラルも問われています。

情報が溢れる今、情報リテラシーを高め、冷静な判断と真実を見極める目を養うことが必要です。

災害時の情報収集は、公的機関から取得しましょう。

9月1日、**関東大震災から101年!**
「情報収集」と「発信」が教訓!